

極楽寺だより



2016(平成28)年8月号

発行所：極楽寺 (浄土真宗本願寺派) ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

盆法会のご案内

暑中お見舞い申し上げます。お盆は都会に出ておられる方々の帰省で、忙しくもうれしい時期です。

ならば、ご家族揃ってお寺にお参りされてはいかがでしょう。盆法会はお勤めを含めて一時間と少しで終わります。計算してみれば、一年は八七六〇時間。八七六〇のうちのたったの一時間です。しかし、こんな慌ただしい時代だからこそ、心を落ち着け仏様に手を合わせる時間を持つことは、人生にとって本当に大切なものとなるはずですよ。

八月十四日(日) 昼二時
八月十五日(月) 昼二時
八月十六日(火) 朝九時(魚法会)



さかなくよう さかなほうえ こころざし ぎぎょうしゃ せんぎき くじら
魚供養、魚法会は、特に志を供えられた漁業者だけの法要ではありません。仙崎地区の鯨
ほうえ
法会のように、どなたでも、また多くの方がともに仏法を聞くことが大切なのです。たくさんのお
参りをお待ちしています。

ご予約下さい

第53回三隅地区親鸞聖人鑽仰会法座
期日：9月23～24日 会場：浅田西福寺
講師：武田龍精 師

※お寺で送迎致します。遠慮なくお申し出下さい。

特別寄付
本堂音響機器
松野美津子様
有難うございました



毎日、お参りしましょう！
キャンペーン 第十三弾

お浄土という世界



お仏壇は阿弥陀様の国、お浄土をあらわしています。お浄土は、西方浄土ともいわれますが、西に行

けば浄土があるということではありません。西方とは陽が沈む場所、つまり帰る場所の象徴です。お浄土とは私たちが帰っていく場所。先に往かれた方と、また俱に会える場所。心の故郷なのです。

しかし近頃は、人間関係が難しい時代ですから、「死んでまでも、あの人には会いたくない」と言われる方もあるかもしれません。

『お葬式川柳』（葬式川柳倶楽部編）という本には、「来世で また逢おうなんて ごめんだわ」「あの世でも 一緒と怖い ことを言い」「天国も 女房がいれば 地獄です」といった、切ない川柳があります。どうぞご安心下さい。煩惱にまみれた人間のままで出会うではありません。今度は、仏さまとして出会い直せる世界です。人間ですから、行き違い、すれ違い、仲違いは当然あることでしよう。しかし、仏さまとして出会い直せる場所がある。↓

「ただいま」「お帰り」と、帰っていける場所がある。これは人間が生きていく上で、とても大切なことです。こんな話は今どきなかなか受け容れられないかもしれませんが、「死んだらそれでおしまい」と考えて生きている人と、「死んだら浄土に帰っていく」と考えて生きている人とは、ものの見方、考え方、そして生き方までもが大きく違ってくるのではないのでしょうか。

ある禅僧が若い頃のお話です。故郷からいよいよ修行に出ようとする時、駅のホームまでお母さんが見送りに来てくれました。いよいよ列車が動き始めようとした時、「立派なお坊さんになって帰ってきますから、お母さんも身体に気をつけて元気で待っていて下さい」と言うと、お母さんから「立派なお坊さんになった時には、私のところに帰ってこなくてもいい。それよりも修行が出来なくなった時や、病気でにっちもさっちもいかなかった時にはいつでも帰っておいで」と言われたというのです。禅僧は、「この母親の

一言がどんなにつらいことに直面ちよくめんした時でも、どんなに悲しいことがあった時でも、いつも私を支えささ続けてくれた。」と。

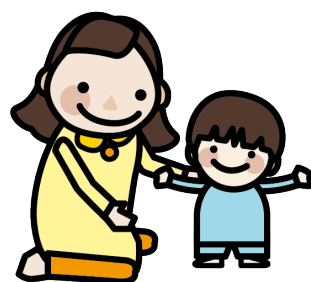
いつでも帰れる場所があるから、すぐに逃げ出すことができるというような話ではありません。この禅僧は、つらい時、逃げ出した時、「お母さん」とつぶやいたでしょう。そして、お母さんの顔を思い浮かべながら、頑張がんばられたのでしょう。一人じゃない。「いつでも帰っておいで。」そう言ってくれる人がいるからこそ、逆に踏ふん張ばることができる。それは、支えて下さる大地だいちがあるからこそ、しっかりと立ち、歩むことができるということなのではないでしょうか。

いろんな悲しみ、苦しみのあるこの人生の中で、待つまちていてくれる人がある。だから、「精一杯せいいつぱい生きたよ」「こんなに感動かんとくしたことがあったよ」「たくさん失敗しぱいしたけれど、僕はこれだけ頑張がんばったよ」と、待っていてくれる人たちに素敵すてきな想い出おもいでをたくさん話せるような、そんな人生を歩んでいこうと思う。これって、「死んだらおわり。だから、自分の好きなことをやる。人のことなんて、どうでもいい。自分が良ければそれでいい。」そんな生き方よりも、ずっと魅力的みりよくてな生き方だと思えます。↘

ところで、つらい時につぶやく「お母さん」という言葉。これはその禅僧がつぶやいた言葉でもあり、同時にお母さんの心がつぶやかせた言葉でもあるのでしよう。

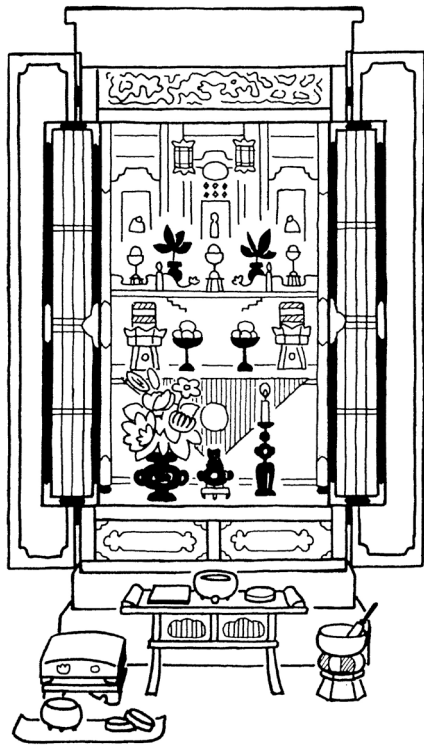
実は「南無阿弥陀仏」というお念仏ねんぶつ

も、同じなのです。私が称となえるお念仏は、ただ私が称となえるということだけではありません。そもそも「南無阿弥陀仏」と称となえるなんて、誰かに教えられなくては、称となえる誰かの姿に出遇であわなければ、しないでしよう。そしてその称となえた人も、また誰かの姿を見て称となえ、その人もまた・・・と、さかのぼれば親鸞しんらん聖人、法然ほうねん上人、お釈迦様、そして阿弥陀様にまでたどり着くのです。つまり、念仏の歴史れきしが私のところまで至り届とどき、初めて私が「南無阿弥陀仏」と称となえているということなのです。これは、私を思い、願われる阿弥陀如来の心が、そしてその心をいただかれた人々の歴史が、私に称となえさせているということなのです。そう考えると、すごいことだと思いませんか？



阿弥陀如来という仏さまが、私たちの迷いまよの（次ページへ続く）

※『毎日、お参りしましょうキャンペーン』は、今回が最終回となります。



《浄土は死の帰るところでありつつ、

それが生の依るところとなる》

金子大栄



姿を慈しみ悲しまれ、お浄土という世界を建立して下さった。私
たちには、また会える世界が、帰っていく世界が用意されている。
その世界を人生のより所とし、生きる方向を指し示して下さい。
その軸として、生き抜かれた先輩方の歴史があるのです。その歩みが、
お仏壇として私たちの前に用意されているのです。

2012（平成24）年4月号から始まりました、『毎日、お参りしましょうキャンペーン』は、今回で一応 **最終回**となります。途中、『花燃ゆ』の関係で中断したこともありましたが、足かけ五年間、十三回にわたり何とか続けることができました。皆さんの「読んでますよ」という声が、どれほど励みとなったことか。本当に、有難うございました。来年から、また新しいキャンペーンを始めようと、現在準備中です。■

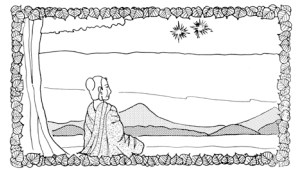
作法一口メモ

問い：お仏壇の、中央の方は？

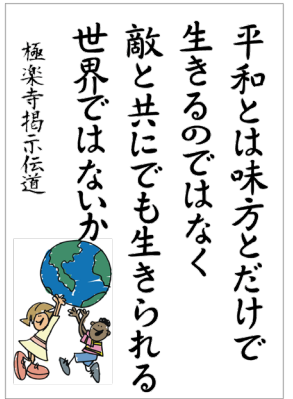


答え：ご本尊の阿弥陀さまです。

ご本尊とは、「本当に尊いこと」という意味です。お仏壇が本当に尊いものではなく、私の人生において、「本当に尊いこと」を教えて下さる仏様として、私たちは阿弥陀さまに手を合わせるのです。阿弥陀さまを通して、人生を見つめさせていただく時、何を尊いものとし、何を粗末にしていたのかを教えられ、進むべき方向が明らかになるのです。



極楽寺揭示伝道 けいじてんどう



8月の言葉

近頃、「国を愛する人になろう」と、声高に叫ぶ人が増えているようです。しかし、「国」の中身や、「愛する」とは具体的にどうすることなのか、ボンヤリしているような気がしてなりません。ここはとても大切なところです。

思想家の内田樹先生によると、「故郷を愛する人」になるのは大変だけれども、「国を愛する人」になるのは簡単なのだそうです。「私は、故郷を愛しています」と宣言した時には、「では、お前は故郷のために、どれだけの貢献をしているのか」という問いが突き付けられますから。取り組みを積み重ね、信頼関係を作り上げるのは大変で、時間がかかります。しかし、日頃からの積み重ねなくしては、「故郷を愛する人」になれないのです。

ところが、「国を愛する人」になるのはとても簡単だそうです。「あいつは、非国民だ!」と誰かを罵れば、それでOK。あなたも、立派な愛国者になれるのだとか。事実、インターネットの世界で

は、罵ることで愛国者を自称している人の多いこと。いや、今では超人気有名作家さんや議員さんからも、そんな発言が聞こえてきます。しかし考えてみれば、昔の政治家は偉かったですね。対立する意見の人をも包み込む、懐の深さがありましたから。

国を愛するのであれば、同じ国に住む人をも愛して欲しい。違う意見や敵は、住む資格がないと切り捨てるのであれば、国を愛しているのではなく、自分の主義主張を愛し、押し付けているだけです。自分の思いを通すために、国を利用していただけなのかも。第一、罵り合うだけでは、世の中ギスギスするばかり。より良い社会や平和の実現には、取り組みの積み重ねと信頼作りこそ不可欠です。

ある浄土真宗のお坊さんが百日間の寮生活を終えられました。二人部屋で百日間。気の合う二人だと楽しい時間でしょうが、人間関係がこじれると泥沼ですね。ぞっとします。その方は残念なことに、気が合わない方と同室になってしまい、とてもつらい日々を送られたそうです。そして、こう言われたとか。

「あんな奴とだけは、一緒にお浄土に往きたくない。」

気持ちにはわからなくありません。しかしこの言葉を聞いて、私はあの先輩の言葉を思い出しました。私たちお坊さん(次ページへ続く)

も人間ですから、愚痴や人の悪口を言うことがあります。私の先輩も気に入らない人への愚痴や悪口を言うのですが、最後にいつもこう言われるのです。

「あんな奴でも、一緒にお浄土に往かなくてはならんのやなあ。」

よく似た言葉です。でも、この二つの言葉の質は全く違います。

前者は自分の願いが優先され、後者は仏さまの願いが優先されます。私たちは人間ですから愚痴も出るし、争いもする。そして、自分の思いを通すためには、仏法まで利用しかねないのです。そして仏法の名のもとに、人を切り捨てようとする。他人事では、ありません。私のことです。

私の先輩は、意見が違う人や嫌いな人、そして敵であっても、阿弥様から見れば同じく等しく願われた仲間だという、仏法の見方を優先されました。それがブレーキとなり、自分の思いを抑えていく。そこに意見が違って、敵であっても、共に生きる世界が開かれていくのです。

阿弥様の心をいただいて生きるとは、こういうことなのだと思えられました。そんな歩みこそが、本当の平和を願う生き方に繋がっているのではないかと教えられます。■



7月の言葉

皆さん、裁判の手順ってご存知ですか？私も知らなかったので、調べてみました。大まかな流れは、まず

【① 罪状認否】

検察官が事件の内容を読み上げ、それについて被告人が犯行を認めているのか、否定しているかを確認します。

【② 冒頭陳述】

検察官が、今回の事件がどういう流れで起きたのか、どういう被害があったのかを具体的に説明します。

【③ 検察官の立証】

検察官が、事件の内容を証明していきます。

【④ 弁護側の立証】

今度は弁護人・被告人側からの立証が行われます。

【⑤ 論告・弁論】

お互いの立証が終了した後、検察官が、どのような判決をすべきかを主張する「論告」を行います。「○○○という証拠が



あり、〇〇という事情があるから、被告人を有罪にして、懲役〇年の刑を科すべきである」という内容です。

これに対し、弁護人から「弁論」が行われ、弁護人としての意見を主張する場となります。

【⑥ 被告人の意見陳述】

一番最後に裁判官から被告人に、言い残したことや、一番伝えたいことを話す最後のチャンスを与える意見陳述があります。

ここまでの手続きを経て、ようやく

【⑦ 判決言い渡し】となるのです。

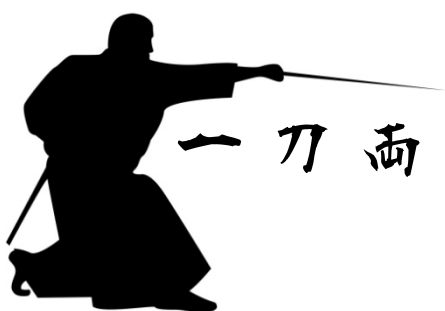
ざっと簡略化して書くだけでも、うんざりするような手順ですが、実際には一つひとつにかなりの時間がかかります。その大きな理由のひとつが、冤罪防止のため。無実の罪をきせられ人生を台無しにされる人を生み出してはならない。なぜなら、人間は必ず間違っても。だからこそ、慎重に慎重を重ねなければならないのでしよう。

ところが私の生き方を振り返ってみると、「あいつが悪い」と一刀両断。相手の事情を考えることもありません。しかし、それが自分のことになると一転、「こつちにも、こんな事情があって」「あの時は、仕方がなかった」と、自己弁護ばかり。自分を弁護するならば、相手を弁護する声にも、耳を傾けなくてはならないはずです。↓

親鸞聖人が、「日本のお釈迦様」と尊敬された聖徳太子は、「われかならず聖なるにあらず、かれかならず愚かなるにあらず。ともにこれ凡夫ならくのみ。」（『憲法十七条』）と言われています。私がいとも正しいわけではなく、彼がいとも間違っているわけではない。共に凡夫なのだ。考えてみれば、当たり前のことなのですが、とても大切で、とても忘れやすいことです。自分がいつも正しいならば、意見の対立する人、文化の違う人、嫌いな人を切り捨てるしありません。そこには、大らかさも、寛容性も生まれません。

近頃は、芸能人や政治家が、その場の雰囲気や感情で、虐めのように叩かれています。その場だけのものだから、すぐ醒める。なかったかのように、次の刺激を求め、生贄を探す。これでは、学校の虐めもなくなりはせず。胸に手を当てて、それでも尚、言わねばならないと発する言葉は重いものがありますが、自分を振り返ることもなく相手を裁く言葉の軽いこと。

聖徳太子も親鸞聖人も、仏様の光に照らされる中で知らされる人間本来のあり方をみつめられました。私たちも立ち止まり、自分の生き方を見つめる場を持つ必要が、あるようです。■



大津東組キッズサンガ ～お寺にとまろう！～

毎年恒例の大津東組主催、キッズサンガ。

今年は、俵山 西念寺で開催いたします。

たくさんの方のご参加をお待ちしています！！



- ◇ 日 時 8月22日 (月) 午後2時30分より 23日 (火) 午後1時まで
- ◇ 場 所 俵山 西念寺 ◇ 対 象 小学3年生から中学生まで
- ◇ 会 費 1,500円 (当日集めます) ◇ 申し込み&お問い合わせ お寺まで。

極楽寺お寺の子ども会 ～花火とかき氷の夕べ～

8月のお寺の子ども会は、夜の子ども会です！

8月18日(木)

夜7時30分から 9時前には終わります



秋の永代経についてのお知らせ

11月14・15日に開催される「秋の永代経法要」のご講師は、以前、三隅地区鑽仰会法会で極楽寺に来られた、相愛大学教授の釈 徹宗先生です。今年4月にNHKで放送された『100分de名著～歎異抄』にも出演され、現在はNHK『シブ5時』(月～金 午後4時50分から放送中)の「お悩み相談渋護寺」コーナーにもご出演など、多方面にわたって活躍中の先生です！お忙しい中お出で下さいますので、たくさんのご参拝をお願いいたします。



□長男の高校野球が終わりました。かなり期待されたチームでしたが、エースの負傷もあり二回戦で負けてしまいました。しかし、とても仲の良いチームで、保護者のチームワークも抜群！残念な結果となりましたが、素晴らしい出遇いに恵まれ、最高の財産になりました。

□先日、かねてより親しくさせていただいているドキュメンタリーの映画監督・森達也さんの新作『FAKE』を観に行ってきました。舞台挨拶に来られていた森さんとも会え、実りある時間を過ごせました。この映画は、ゴーストライター騒動で話題となった佐村河内守さんと、その奥さんを題材としながら、私たちの見方が、一方的で一面的でしかないことを鋭く指摘しています。黒か白か、敵か味方かと、物事を単純化しがちな社会に生きている私たちですが、立場によって見方も受け取り方も変わるの、考えてみればごく当たり前の話です。そもそも世界はもっと深く、豊かであるはずなのに、薄っぺらく単純化して決めつけるのは傲慢なのかもしれません。私たちの見方という枠組みを揺らす森監督の手法は、まさに仏教に通じます。(住)

